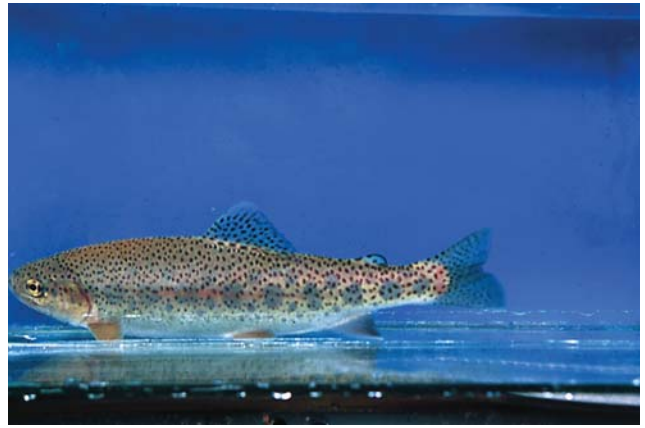


ニジマス

Salmo (Oncorhynchus) mykiss

サケ科



ニジマス

名前の由来

英語名のrainbow troutを直訳したもの。体側中央を走る美しい帯を虹に見立てたのであろう。漢字名：虹鱒

特定種

該当なし。

形態的特徴

全長40～50cm（河川残留）、80～100cm（降海・降湖）。尾柄が太く、尾ビレ後端の切れ込みは浅い。体の背側面は灰緑色で腹面は白色。小黑点が体の全面あるいは背側に密に散在し、背ビレや尾ビレ、脂ビレにも黒斑が密にある。えらぶたから側線に沿って尾柄部まで幅広い赤紫色あるいは紅色の縦帯（口を上、尾を下にして）がある（全長が15

～20cm以上の個体）。

脂ビレを持つ。（脂ビレ：背ビレと尾ビレの間のヒレで、サケ科、キュウリウオ科《アユの仲間も含む》、熱帯魚のカラシン亜目にのみ見られる。条《スジ》がない幼魚はパーマークを持つ。

類似種と見分け方

幼魚時はヤマメ。

ニジマスは背ビレや尾ビレの黒点が著しく多く、また口が小さい。尻ビレの軟条（スジ）の数が、ヤマメ13～15本であるのに対し、ニジマスは8～12本と少ない。



類似種、ヤマメ

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
産卵期				■								
孵化期					■							
幼魚期	■											
成魚期	■											
				産卵					寿命は3～4年ないし6～8年			

一 生

産卵期は4～6月。1ヶ月～1ヶ月半でふ化。ふ化後20～30日で浮上し、遊泳を始める。

ふ化後満1年ではほとんど成熟せず、3年目までにほとんどが成熟する。

抱卵数は年齢に関わりなく、大きさに伴って増加していき、実験によると満3歳・体長39.0cmで2,400粒、満4歳・体

長45.9cmで3,460粒であったという（水産庁淡水区水産研究所 日光支所）。

寿命は6～8年。陸封型が3～4年、降海型が6～8年とも言われる。

生息環境・分布

河川では一般に中上流域（淵など）に生息、湖では深く冷たいところに多いという。

分布：北米、南米、ヨーロッパ各地、ニュージーランド、オーストラリアなどに分布。

日本には本来生息していなかったが、日本各地に移入・養殖された。

北海道では全域に生息（養殖・放流・定着）

移入、養殖、放流、定着により十勝の河川に広く分布する。

主に中流域に生息するが、上流から山間の溪流にも分布域を広げている。

食 性

河川で生育するものは水生や陸生の昆虫、甲殻類、環形動物、その他の小動物。湖や海域のものは魚食性を示す。

繁殖生態

産卵期は4～6月（北海道の天然繁殖地）。産卵場所は淵尻の瀬の礫底。産卵期には特にオスの赤いラインが鮮やかになる。産卵はオスメスがつかいとなっておこなう。メスが産卵床を掘り、オスメスが並んで放卵・放精をおこなう。

卵数は1回の産卵で800～1,500個ほど。水温10.2℃の時31日でふ化する。

他生物との関わり

魚食性の動物の餌になると思われる。

興味深い話

■塩焼きなどで食べられるが、サケの仲間としては、あまり美味しくない。

■1877年以降数回に渡ってアメリカから持ち込まれた移入種である。メキシコより北の北アメリカ大陸西部とカムチャツカ半島の河川・湖沼が原産地であり、降海するものもある。降海するものはスチールヘッドと呼ばれ、120cmにも達するという。

■比較的高い水温にも強く、何回も産卵する上に、改良も重ねられたので、サケの仲間としては養殖が最も容易である。一方で、日本全国で放流が繰り返されてきたのにもかかわらず、自然条件下で繁殖・定着した所は北海道以外で

は少ない。

■海外で海面養殖された大型のニジマスの切り身が、「トラウトサーモン」の名で店頭に並ぶようになっている。



ニジマス。

配慮事項

河床が平坦化すると、生息できる場が失われる恐れがある。外来種であるということから、放流を疑問視する声もある。

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類
ワシ・タカ

参考文献

「漁業生物図鑑 北のさかなたち」長澤和也・鳥澤雅 編、(株)日本海洋センター 1991

「野外野外ハンドブック・10 魚 淡水編」桜井淳史、山と溪谷社、1981

「検索入門 川と湖の魚②」川那部浩哉・水野信彦、保育社 1990

「図説 魚と貝の大辞典」望月賢二 監修、魚類文化研究会 編、柏書房 1997

「山溪カラー名鑑 日本の淡水魚」川那部浩哉・水野信彦 編・監修、山と溪谷社 1989

「北海道の淡水魚」稗田一俊、北海道新聞社 1984